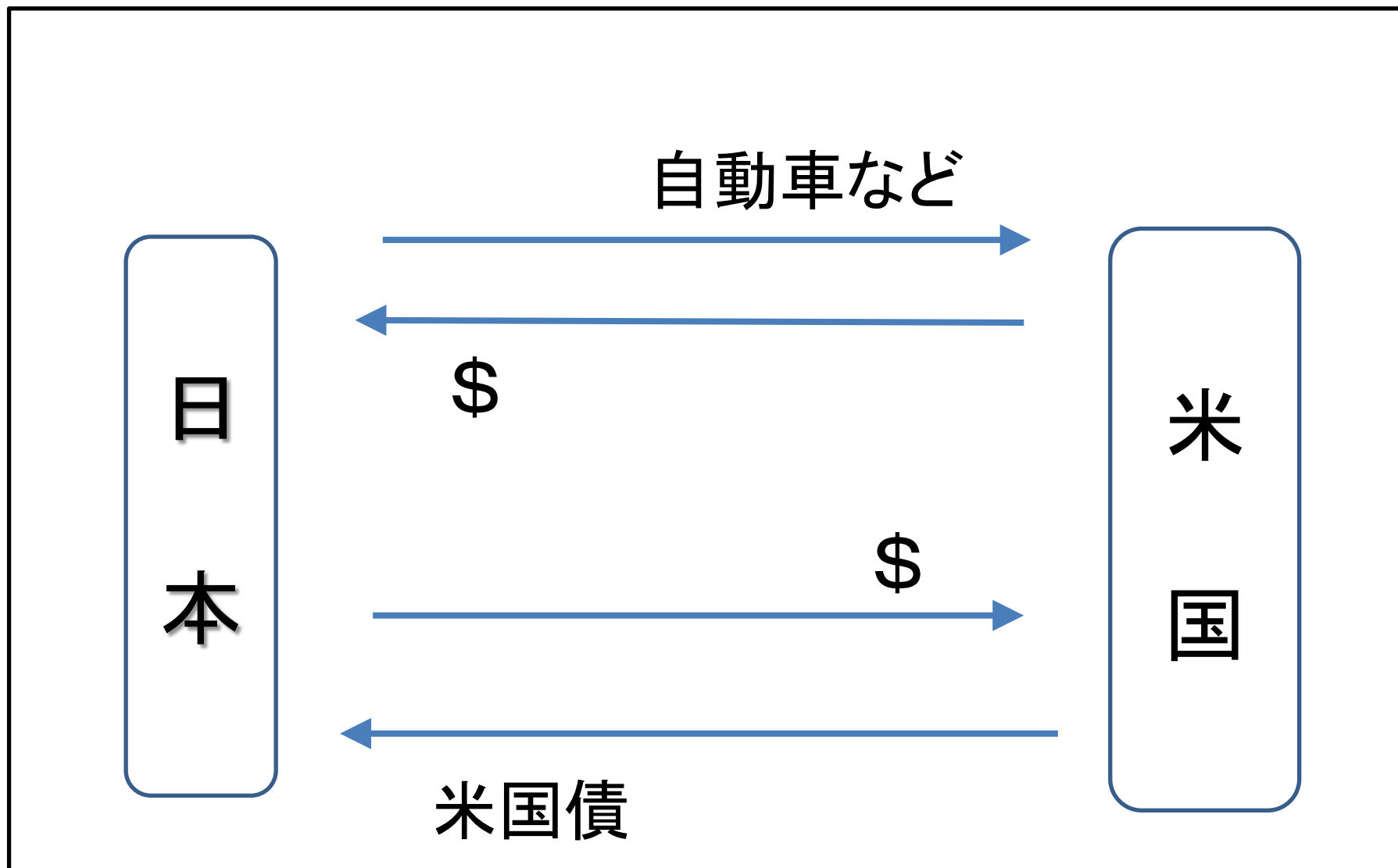


# 国際的なモノとカネの流れ



# 『日本の国際収支』

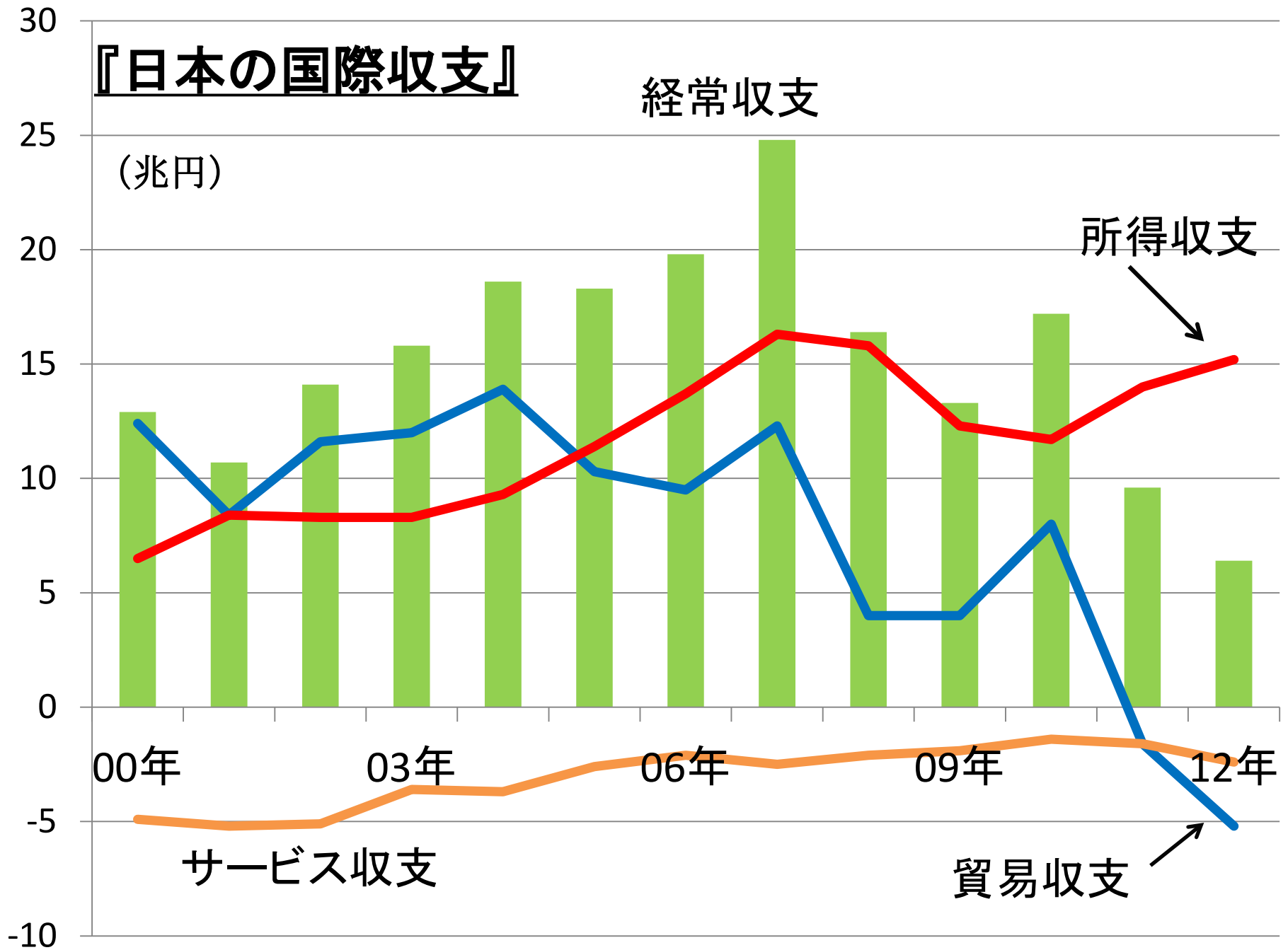
(兆円)

経常収支

所得収支

サービス収支

貿易収支



# 經常収支

貿易収支 …… モノの輸出入。

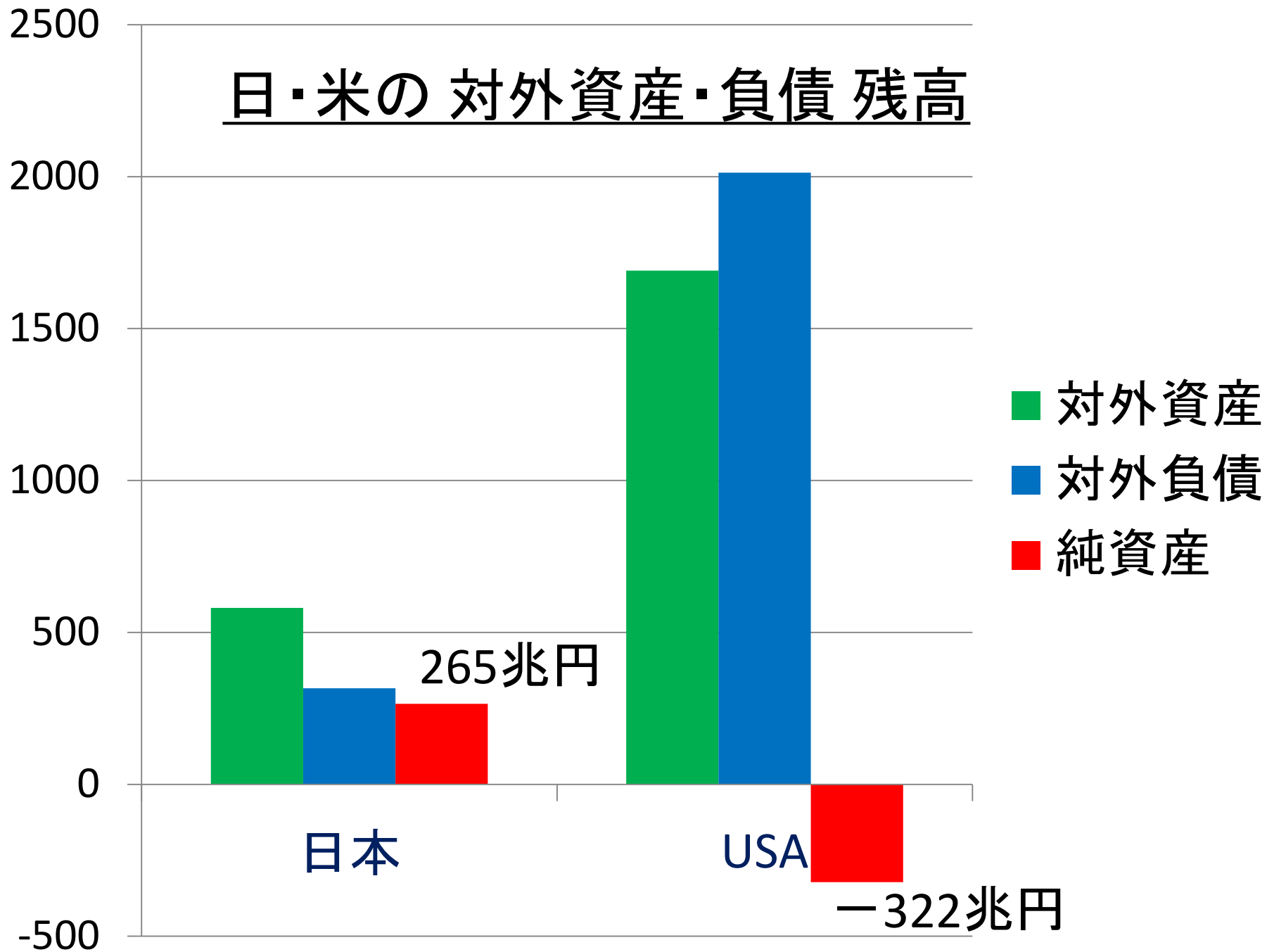
サービス収支 …… 旅行、運輸、など。

所得収支 ……

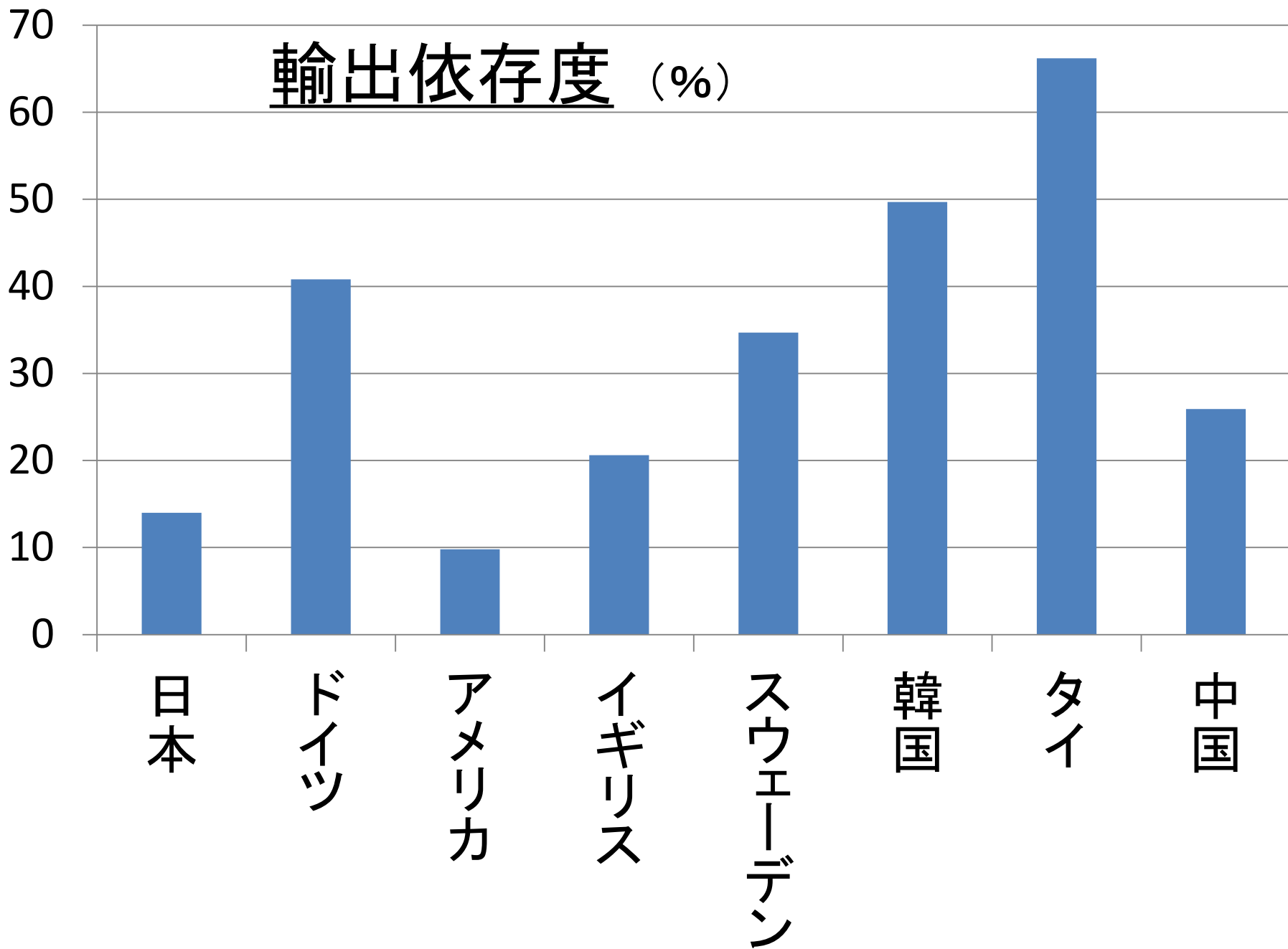
対外資産からの受け取り&対外負債への支払い  
(国債の利子、株の配当、工場からの収益、など)

移転収支 …… 外国人労働者の送金、海外援助、など。

# 日・米の 対外資産・負債 残高



# 輸出依存度 (%)



# 経済学者・ケインズ

「債務があまりに巨額になったとき、  
2国間で発生した債権・債務関係は決済されない」

「過度に貸したカネは返ってこない」

(お金を借り過ぎたら、返せない)

…………… 歴史的な教訓.

# 「日本がアメリカに貸してあるカネを 取り戻す」とは？

保有する「米国債」を売り、そのドルを円に替える。

→ ドル売り・円買い → 大幅なドル安・円高に。

→ 日本が手にする「円」は大きく目減りする。

過労死するまで働いて、輸出した結果 ……

毎年、兆円規模の労働が「タダ働き」になる。

# 過去の債権大国・イギリス

イギリスは世界の工場として、輸出を増やし、  
対外資産を積み上げた。

イギリスが、その対外資産から収益を得る。

(所得収支の黒字)

= 他の国はゴールドかポンドで支払う。

…… それはイギリスが貿易赤字を出すこと。  
こうして、モノとカネは回っていた。

『債権大国は 輸入大国』



# 「債権大国・日本が採る道」

付加価値の低いモノを がむしゃらに 輸出することは  
人々に 幸せを もたらさない。

「輸出は重要ではない」 ではなく、

輸出は、付加価値の高い製品に 絞る。

付加価値の高いモノやサービスにシフトする。

…… ワーク・ライフ・バランス のためにも不可欠。

「同一労働・同一賃金」

最低賃金 = 1.000円

ワーク・シェアリング

## 2つの考え方

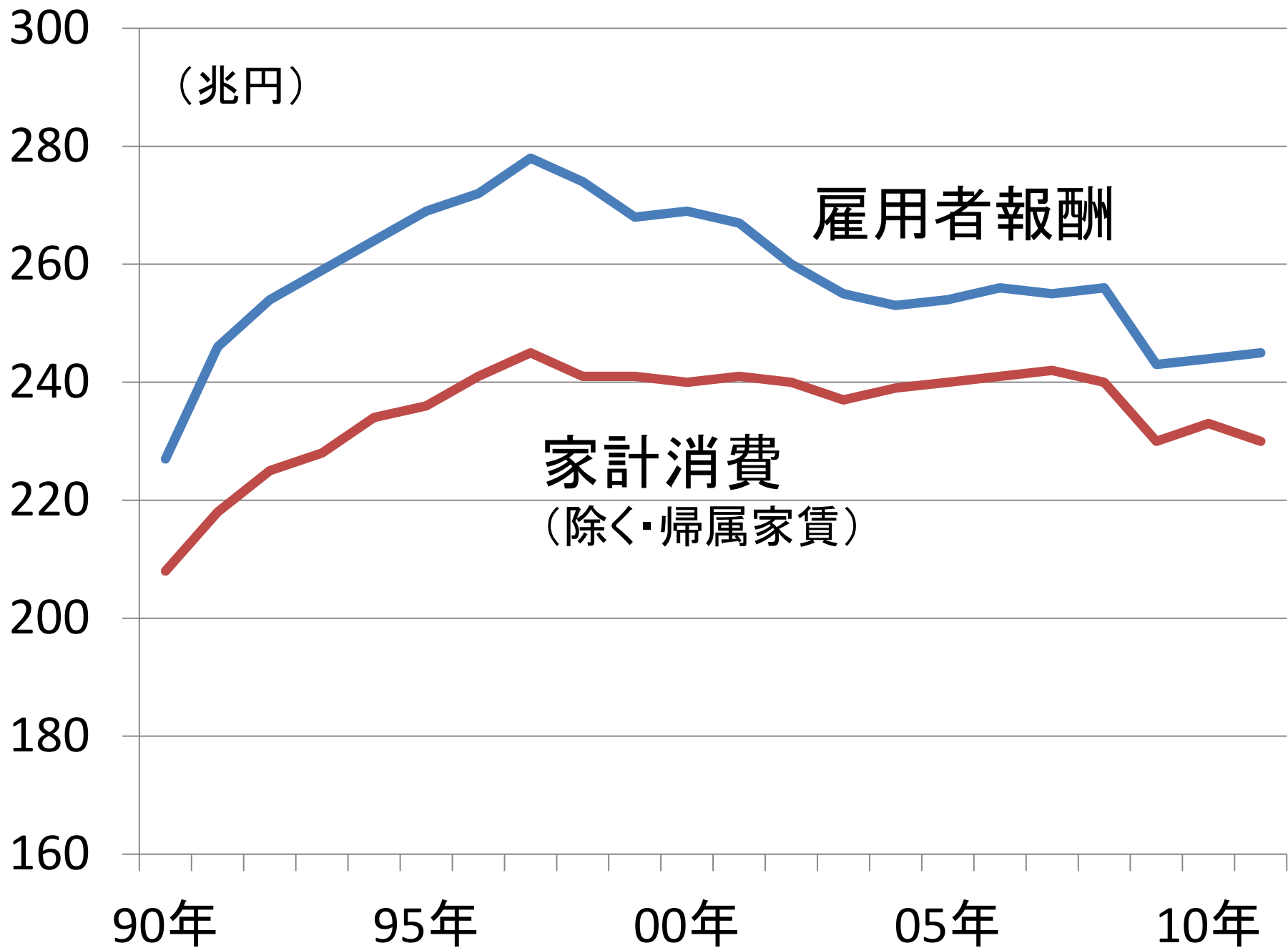
「国際的に見て、我が国の賃金は高すぎる。

これでは競争に勝てない。

だから、賃金を下げるべきだ」

「我が国の賃金は高い。

だから、高い賃金に見合うモノを創る。」



## ボルボ（スウェーデン）

（1999年） 乗用車部門をフォードに売却。

（2010年） 「ボルボ・カーズ」は中国企業の傘下に入る。

労組は経営支援を要請したが、政府は拒否。

「経営が悪化するということは、高い付加価値を生み出していないのだから、他国の企業に買われても仕方ない」

（低い付加価値しか生まない企業は、  
スウェーデンには必要でない）

# 中北欧のシステム

会社はつぶしても、人間はつぶさない

職業訓練、

再就職の世話、

生涯教育、

子育て支援、など。

# 日本のシステム

大会社がつぶれたら、  
労働者、そして 関連企業は 非常に困る。  
→ 大会社を助け、社会の安定を保つ。

その結果、 退出すべき企業が生き残り、  
産業構造の転換は遅れ、新しい産業が発展しにくい。

高い付加価値の仕事を産み出しにくいシステム。

# 国際競争力を高めるために、賃金を上げる

人間の能力を高めて、  
付加価値の高いモノやサービスの生産にシフトする。

経済を発展させるのは「人間」

人件費は「コスト」ではなく、「投資」

職業訓練、生涯教育

…… 新しい産業構造に対応できる人間を育てる。



# 日本的な発想

(既存の産業で) アジア諸国と競争するには、  
賃金を下げるしかない。

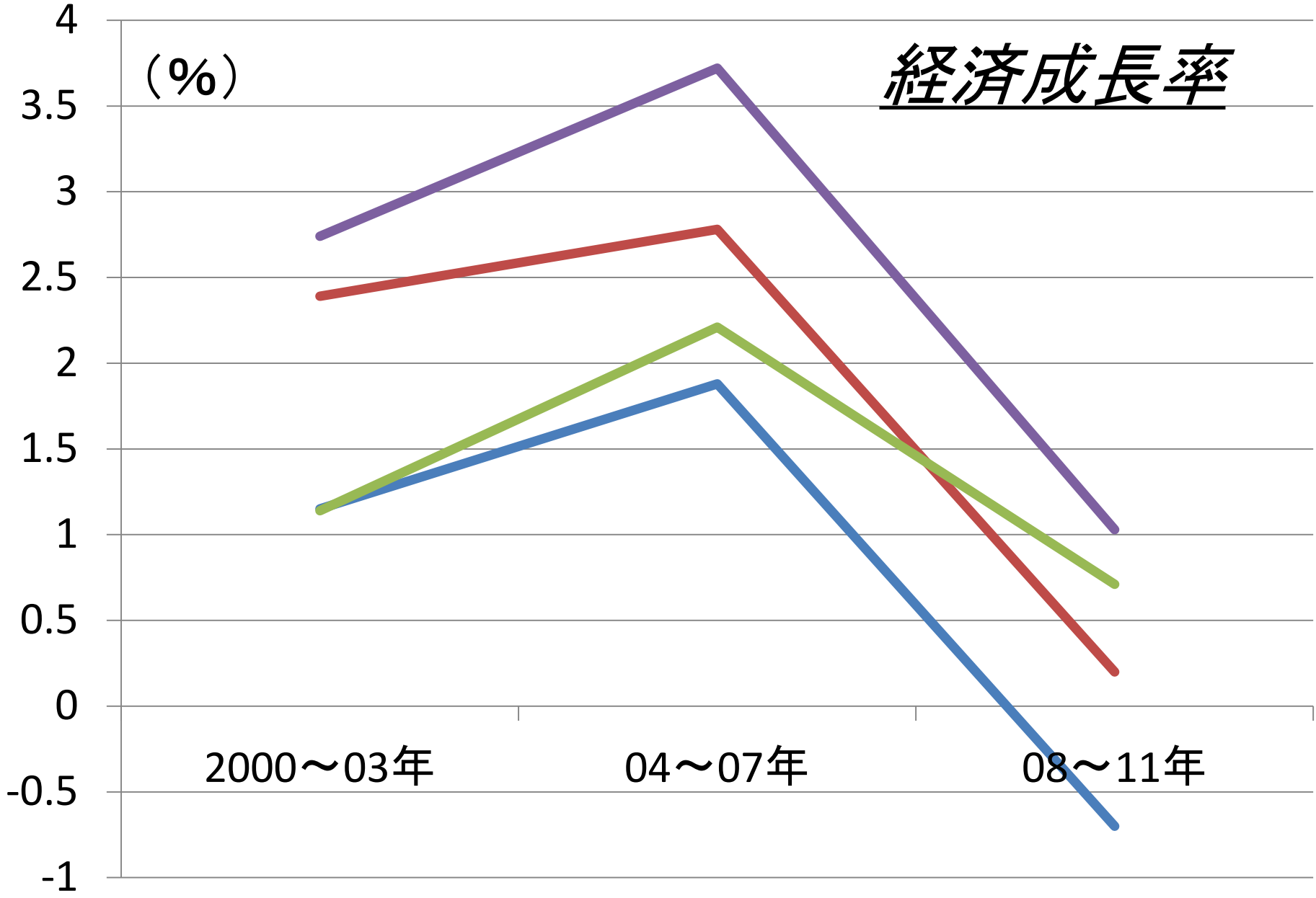
人間が持つ能力はあまり使わずに、  
賃金ダウンで、国際競争力を高める。

「新しい産業の創出に積極的」か？

…… 先進国の中では低い。

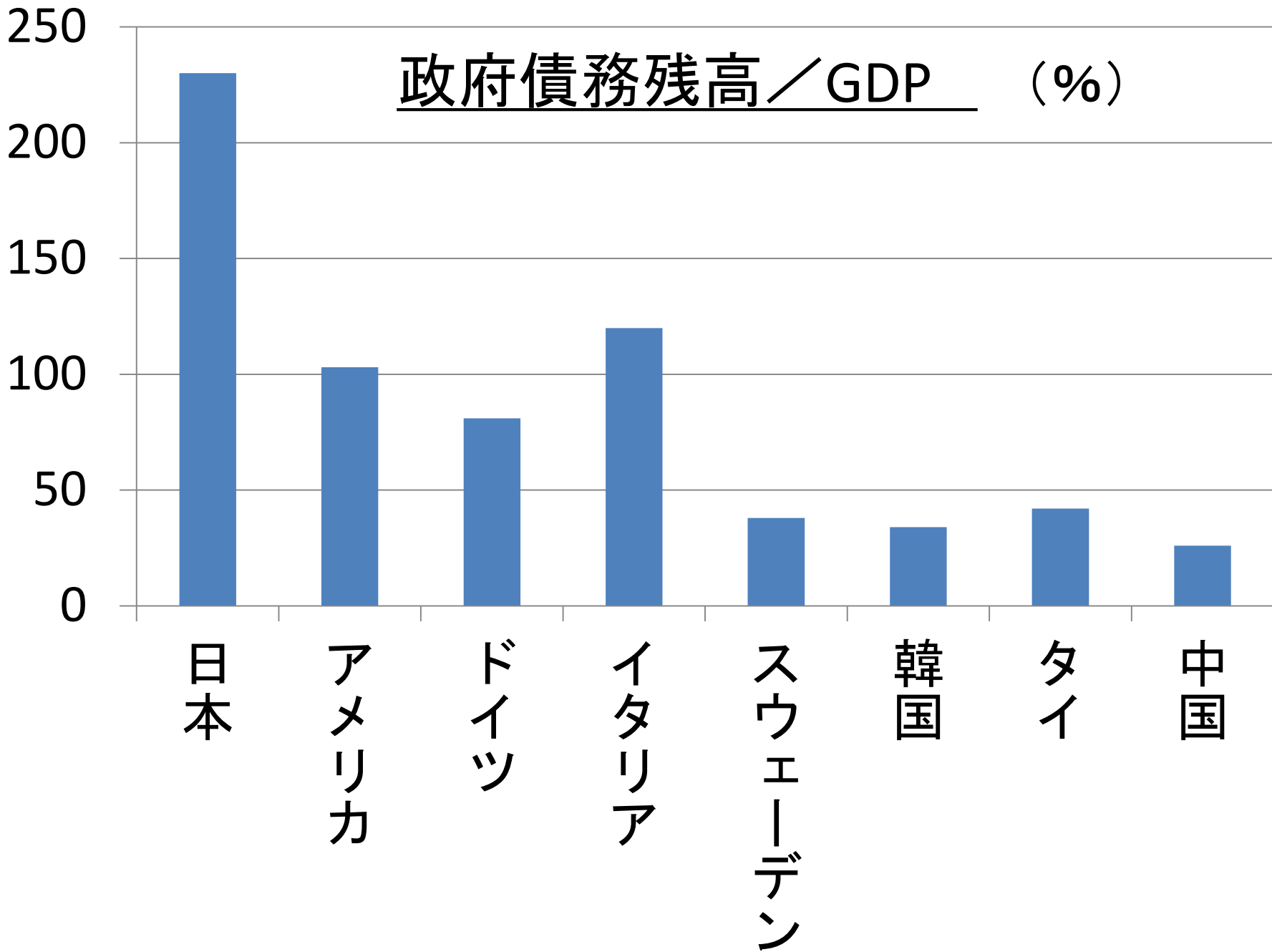
# 経済成長率

(%)



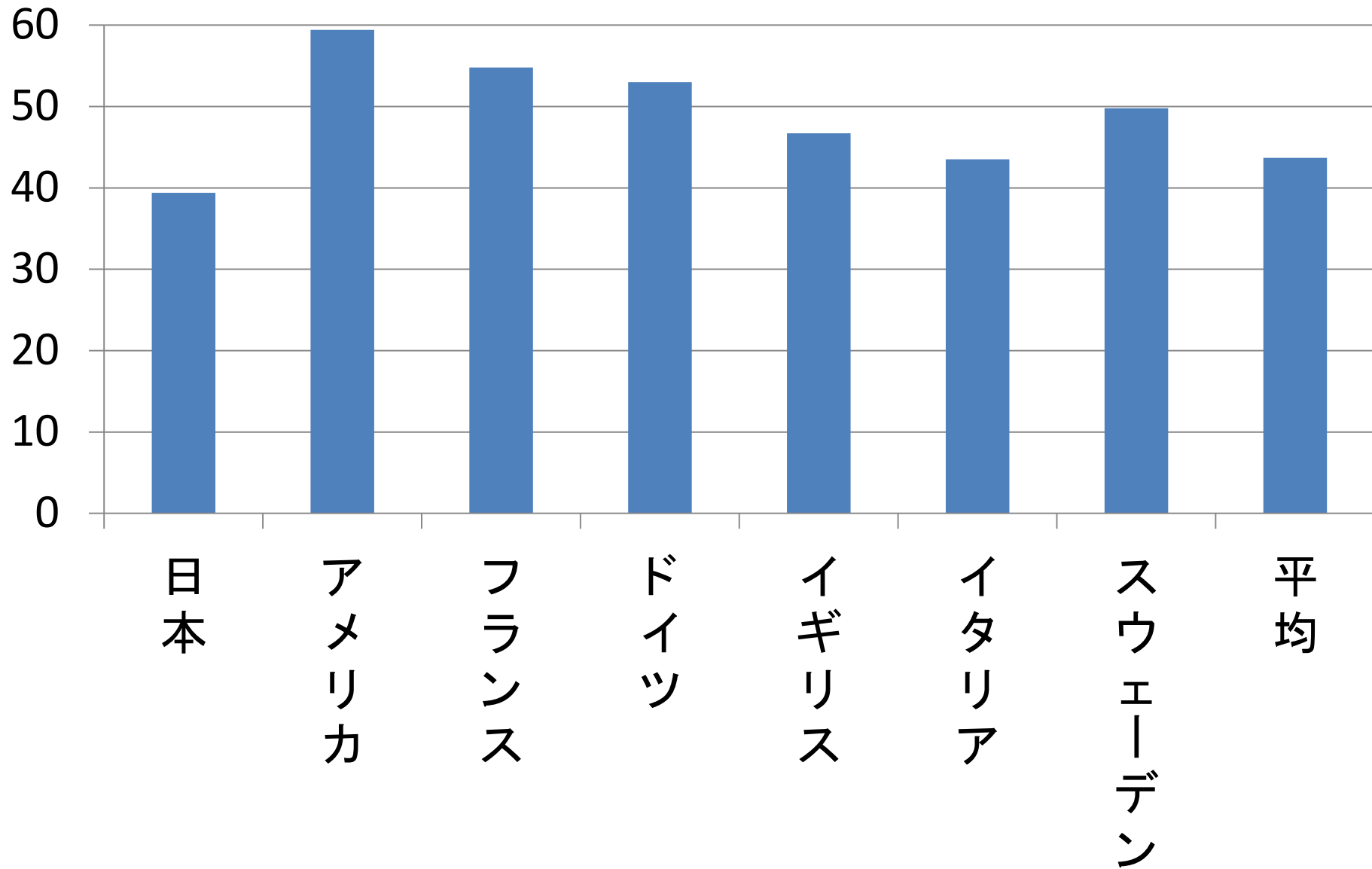
— 日本 — アメリカ — ドイツ — スウェーデン

# 政府債務残高／GDP (%)



# 労働生産性

(ドル/時間、物価調整後、OECD34国)



「21世紀型の社会・経済システム」を創ることに  
日本は失敗した。

20世紀型 大量生産・大量消費の工業文明  
…………… 日本は最も成功した。

「量的な拡大」から「質的な充実」への転換  
…………… 日本は失敗した。(最も遅れている)。

21世紀型の経済 …… 本当に必要なモノ・サービスを  
知恵、情報でくるんで提供する。

「21世紀型の産業構造」へ転換するには、  
人間を大切にし、人間の能力を高める  
民主主義が不可欠

経済の土台をつくっているのは人間。

人間と社会に対する信頼と尊厳を持てるか。